

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
領域に関する専門的事項 健康		幼児と健康 Infants and Health		2単位	必 修	講 義	2 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	身体発達、運動発達を中心とした乳幼児期の発達について理解を深める。また、現代の乳幼児の健康に関する課題を意識し、乳幼児の健康に関わる保育者の役割について学ぶ。生命の保持と情緒の安定を図る保育において、子どもの保健をめぐる医学的、社会的課題を理解するとともに、子どもの健康の保持増進のための知識と能力を養う。							
キーワード	予防的な保健活動の重要性 身体発達 運動発達 健康 保育者	学修教育目標	【第1回～第12回】 1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 2. 子どもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達について理解する。 3. 子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について理解する。 4. 子どもの精神保健とその課題等について理解する。 5. 保育における環境及び衛生管理並びに安全管理について理解する。 6. 施設等における子どもの心身の健康及び安全の実施体制について理解する。 【第13回～第15回】 乳幼児期からの身体発達、運動発達を説明することができる。 乳幼児期における発達を理解し、保育者としての役割を説明できる。 乳幼児期の発達と健康に関する現代の課題について、保育者としての自分なりの考えをもつことができる。					
授業科目の概要及び学修上の助言								
【第1回～第12回】 乳幼児期の健康管理、保育保健活動には小児の成長発達に関する知識が土台となります。また、子どもの心身の育ちには子どもを取り巻くすべての環境が大きく影響します。保育者として、子どもたちの健康な育ちにとって適切な環境とはどのようなものか、その実現のためにどうすべきかなど、保健的な視点で、教科書に沿ってパワーポイントを使用し講義形式で行います。健康観察のポイント、病気や異常に気づくための知識や応急処置、及び保護者への対応や支援について学びます。また必要によりDVDを教材として視聴することもあります。 概ね教科書に沿って授業を進めますが、授業で扱わなかった項目は各自で学習すること。シラバスに毎回の授業内容に対応する教科書の単元を記していますので、事前に教科書の該当部分に目を通しておいてください。授業で実施した内容は教科書、資料、ノートを見直し内容を理解するように努めてください。教科書に沿ったパワーポイントです。教科書を必ず持参してください。講義内容は各自ノートに記し、DVD視聴した場合はその内容をメモしてください。必要により、課題レポートの提出を求める場合があります。 【第13回～第15回】 身体発達、運動発達を中心とした乳幼児の発達を理解するとともに、保育実践に関する動画の視聴、それに基づくグループワークを通して乳幼児の発達を支える保育者の役割について考える。演習、グループワークは当然のことながら、講義においても受動的ではなく主体的に考えながら授業に参加すること。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
「子どもの保健」「子どもの保健演習」と関連する。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
書 名：新時代の保育双書 図解 子どもの保健Ⅰ 第2版 著者名：服部右子・大森正英 編 出版社：株式会社 みらい				書 名：子どもの姿からはじめる領域・健康 著者名：秋田喜代美（監） 出版社：株式会社 みらい				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。		保育や教育環境を安全で衛生的に管理できる。乳幼児期における発達を理解し、保育者としての役割を説明できる。 ○					
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。		教育・保育に必要な専門知識を基に成長発達を支援できる。 ◎					
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		子どもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達に関する知識を身につけ、保育や教育に活かす。乳幼児期からの身体発達、運動発達を説明することができる。 ○					
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		子どもの疾病とその予防法及び適切な対応方法を身につけ、実践できる。 ◎					
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		子どもの心身の健康増進を図る保健活動ができるようになる。乳幼児期の発達と健康に関する現代の課題について、保育者としての自分なりの考えをもつことができる。 ◎					
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		施設等における子どもの心身の健康及び安全の実施体制について理解し、実践することができる。 ○					
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性	自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。グループワークに主体的、積極的に取り組むことができる。 ○					
		② 働きかけ力	相手を納得させるために、協力することの必然性（意義・理由・内容等）を伝えることができる。 ○					
		③ 実行力	強い意志を持ち、困難な状況から逃げずに取り組み続けることができる。 ○					
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力	現状を正しく認識するための情報収集や分析ができる。 ◎					
		② 計画力	作業のプロセスを明らかにして優先順位をつけ、実現性の高い計画を立てられる。 ○					
		③ 創造力	従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。他者の意見も踏まえながら自分自身の意見を明確にし、それをまとめることができる。 ◎					
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力	事例や客観的なデータ等を用いて、具体的にわかりやすく伝えることができる。自分の考えをグループで積極的に発言できる。 ◎					
		② 傾聴力	内容の確認や質問等を行いながら、相手の意見を正確に理解することができる。グループワークにおいて他者の意見を聞き、尊重することできる。 ◎					
		③ 柔軟性	自分の意見を持ちながら、他人の良い意見も共感を持って受け入れることができる。 ○					
		④ 状況把握力	周囲の人の状況（人間関係、忙しさ等）に配慮して、良い方向へ向かうように行動することができる。 ○					
		⑤ 規律性	相手に迷惑をかけたとき、適切な行動を取ることができる。 ○					
		⑥ ストレスコントロール力	ストレスの原因を見つけて、自力で、または他人の力を借りてでも取り除くことができる。 ○					
4. 倫理観		① 倫理性	相手の立場に立って行動することができる。 ◎					

※1 ○:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ◯:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ◯:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			50	20	20				10	100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		10	20	4				2	36
	技能に関する評価		10		4				2	16
	応用力に関する評価		10		4				2	16
	チームワーク力に関する評価		10		4				2	16
	関心・意欲に関する評価		10		4				2	16
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
学修教育目標（達成目標） 1 ～ 6 の達成度が 80%である。					学修教育目標（達成目標） 1 ～ 6 の達成度が 70%である。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	子どもの健康と保健の意義と目的 子どもの保健の内容について 健康の概念と健康指標	講義 教科書に沿ったパワーポイントを提示	日頃から社会の動きに関心を持ち、保育・教育者の視点で考えておく。 予習：事前に教科書の該当部分に目を通しておく 復習：授業で実施した内容は教科書、資料、ノートを見直し内容を理解するように努めること	60
第 2 回 ／	子どもの発育・発達と保健	講義 教科書に沿ったパワーポイントを提示	日頃から社会の動きに関心を持ち、保育・教育者の視点で考えておく。 予習：事前に教科書の該当部分に目を通しておく 復習：授業で実施した内容は教科書、資料、ノートを見直し内容を理解するように努めること	60
第 3 回 ／	身体の発育と保健 出生後の各時期の臓器・器官の発育（脳、骨、歯）	講義 教科書に沿ったパワーポイントを提示	日頃から社会の動きに関心を持ち、保育・教育者の視点で考えておく。 予習：事前に教科書の該当部分に目を通しておく 復習：授業で実施した内容は教科書、資料、ノートを見直し内容を理解するように努めること	60
第 4 回 ／	生理機能の発達と保健 循環 呼吸 消化 排泄 免疫 体温 DVD「命の始まり」	講義 教科書に沿ったパワーポイントを提示 DVD 視聴	予習：事前に教科書の該当部分に目を通しておく 復習：授業で実施した内容は教科書、資料、ノートを見直し内容を理解するように努めること	60
第 5 回 ／	子どもの運動機能の発達	講義 教科書に沿ったパワーポイントを提示	予習：事前に教科書の該当部分に目を通しておく 復習：授業で実施した内容は教科書、資料、ノートを見直し内容を理解するように努めること	60
第 6 回 ／	子どもの精神保健	講義 教科書に沿ったパワーポイントを提示	予習：事前に教科書の該当部分に目を通しておく 復習：授業で実施した内容は教科書、資料、ノートを見直し内容を理解するように努めること	60
第 7 回 ／	子どもの生活環境と精神保健 子どもの心の健康とその課題（習癖障害 登園拒否 児童虐待等）	講義 教科書に沿ったパワーポイントを提示	予習：事前に教科書の該当部分に目を通しておく 復習：授業で実施した内容は教科書、資料、ノートを見直し内容を理解するように努めること	60
第 8 回 ／	保健年間計画	講義 教科書に沿ったパワーポイントを提示	予習：事前に教科書の該当部分に目を通しておく 復習：授業で実施した内容は教科書、資料、ノートを見直し内容を理解するように努めること	60
第 9 回 ／	子どもの生活習慣と健康	講義 教科書に沿ったパワーポイントを提示	予習：事前に教科書の該当部分に目を通しておく 復習：授業で実施した内容は教科書、資料、ノートを見直し内容を理解するように努めること	60
第 10 回 ／	清潔習慣 気になる子どもとその保護者対応	講義 教科書に沿ったパワーポイントを提示	予習：事前に教科書の該当部分に目を通しておく 復習：授業で実施した内容は教科書、資料、ノートを見直し内容を理解するように努めること	60
第 11 回 ／	子どもの事故と安全指導及び応急処置 応急処置の実際と基本的な考え方	講義 教科書に沿ったパワーポイントを提示	予習：事前に教科書の該当部分に目を通しておく 復習：授業で実施した内容は教科書、資料、ノートを見直し内容を理解するように努めること	60
第 12 回 ／	乳幼児期の子どもの発育と栄養 母子保健行政母子保健対策の現状と動向	講義 教科書に沿ったパワーポイントを提示	予習：事前に教科書の該当部分に目を通しておく 復習：授業で実施した内容は教科書、資料、ノートを見直し内容を理解するように努めること	60
第 13 回 ／	幼児期の発達と健康Ⅰ：遊びと運動発達	講義、演習	復習：授業内容に関する小レポート	30
	コメントシート、演習			
第 14 回 ／	幼児期の発達と健康Ⅱ：運動発達と環境、保育者の役割	講義、演習、グループワーク	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	30 30
	コメントシート、演習、グループワーク			
第 15 回 ／	幼児期の発達と健康Ⅲ・まとめ	講義	予習：前回の復習	30
	小テスト、レポート			

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。**学 び の 道 標 （みちしるべ）**（学修支援計画書）

授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
領域に関する専門的事項 人間関係		幼児と人間関係 Infants and Human Relationship		2単位	必 修	講 義	1年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的								
	子どもの人間関係のひろがりを理解し、それぞれの段階における身近な人との関わりの中で、どのように自立心が育ち、人とかかわる力が養われていくのかを学修する。							
キーワード			学修教育目標					
	人間関係 自立心 指導力			幼稚園教育、保育において「育みたい資質・能力」を理解し、人との関わりに関する領域「保育内容（人間関係）」のねらい及び内容について、幼児の発達に即した、主体的・対話的な深い学びが実現する過程を踏まえながら、具体的指導場面を想定した保育内容を計画、実行できる。				
授業科目の概要及び学修上の助言								
保育の5領域の中の「人間関係」とは、何を学ぶのかを深く理解する。乳幼児がかかわる身近な人とはどのような人か、子どもはその人たちから何を学び成長していくのかを学修する。 また、自らがかわってきた人たちが、自分の生き方にどのように影響しているのかを考察する。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
「幼児理解の理論と方法」「乳幼児保育」での、発達の理解との関連があるので、乳幼児の発達を理解しておくこと。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
書 名：新時代の保育双書 保育内容 人間関係（第2版） 著者名：濱名 浩 編 出版社：(株) みらい				授業内において適宜指示する。				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。							
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。							
③	子どもの発達に関する知識を身につける。							
④	子どもの発達に関する技能を身につける。							
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。							
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		幼児教育・保育の場における諸問題と、その解決のための指導力を身につける。 ◎					
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性		課題や問題に対して、解決のために積極的に取り組む。 ○				
		② 働きかけ力						
		③ 実行力						
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力		現状を分析し、目的や問題を明らかにする。 ◎				
		② 計画力		明らかにされた課題や問題の解決のための指導案を作成する。 △				
		③ 創造力						
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力						
		② 傾聴力						
		③ 柔軟性		他者との意見の食い違いや、立場の違いを理解する。 △				
		④ 状況把握力		課題や問題の起こる状況を把握し、行動する。 ◎				
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性		保育者としての倫理観を身に付ける。 ○				

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			50		50					100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		50		50					100
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
幼児の発達に即した、主体的・対話的な深い学びが実現する過程を踏まえながら、具体的指導場面を想定した保育内容を計画して実行できる。					幼稚園教育、保育において「育みたい資質・能力」を理解し、人との関わりに関する領域「保育内容（人間関係）」のねらい及び内容について理解する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	保育内容（人間関係）とは	講義、演習	教科書の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 2 回 ／	人との関わりに関する領域「保育内容（人間関係）」の基本	講義、演習	教科書の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 3 回 ／	人との関わりに関する領域「保育内容（人間関係）」のねらい	講義、演習	教科書の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 4 回 ／	人との関わりに関する領域「保育内容（人間関係）」の内容	講義、演習	教科書の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 5 回 ／	乳幼児の「人との関わり」① －乳幼児の発達と人とのかかわり	講義、演習	教科書の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 6 回 ／	乳幼児の「人との関わり」② －人とのかかわりと遊び、遊びの中での人とのかかわり	講義、演習	教科書の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 7 回 ／	人との関わりに関する領域「保育内容(人間関係)」の保育方法① －指導案の作成、教材や情報機器の研究及び活用	講義、演習	教科書の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 8 回 ／	人との関わりに関する領域「保育内容(人間関係)」の保育方法② －指導上の留意事項	講義、演習	教科書の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 9 回 ／	人との関わりに関する領域「保育内容(人間関係)」の保育方法③ －評価と改善	講義、演習	教科書の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 10 回 ／	人との関わりに関する領域「保育内容(人間関係)」の保育方法④ －模擬保育実践事例を通しての理解－	講義、演習	教科書の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 11 回 ／	人とのかかわりが難しい子どもへの支援	講義、演習	教科書の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 12 回 ／	園、家庭、地域の生活と人とのかかわり	講義、演習	教科書の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 13 回 ／	小学校の授業と保育内容（人間関係）の違い	講義、演習	教科書の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 14 回 ／	これからの保育と人との関わりに関する領域 「保育内容(人間関係)」の内容	講義、演習	教科書の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 15 回 ／	人生の基礎を培う乳幼児期の「保育内容（人間関係）」	講義、演習	教科書の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段：英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
領域に関する専門的事項 環境		幼児と環境 Infants and Environment		2単位	必 修	講 義	1 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	現代の子ども（幼児）を取り巻く現状について知り、子どもがどのように環境とかかわりながら育つことが望ましいかを踏まえた上で、保育・教育施設における環境構成を考える力を身に付けることを学修教育目的とする。							
キーワード	子どもを取り巻く環境	幼児	保育・教育施設の環境	学修教育目標	1. 現代の子ども（幼児）を取り巻く環境について知り、子どもがどのように環境とかかわりながら育つことが望ましいかを理解できるようにする。 2. 保育・教育施設における物的環境を捉え、さまざまな環境構成を考えることができるようにする。 3. 子ども理解に基づく環境を通した保育・教育実践計画を立てることができるようにする。 4. 保育における環境の重要性および具体的な指導方法や環境構成について説明することができるようにする。			
授業科目の概要及び学修上の助言								
さまざまな演習を通して「幼児と環境」への理解を深めることを目指す。 手づくり教材見本づくりにおいては材料の一部が自己負担となる場合があります。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
現代の子どもを取り巻く環境に関する新聞記事などに関心を持ち、目を通しておく。 子どもを取り巻く環境における自然に興味を持ち、普段から自身が目にする生き物や植物などに関心を持つようにしておく。 ボランティアなどで保育・教育施設に行くことを保育・教育施設の環境を知るという観点からも推奨する。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
書 名：実践事例から学びを深める保育内容・領域環境指導法 著者名：小櫃智子編著 出版社：わかば社				書 名：保育所保育指針解説 平成 30 年 3 月 著者名：厚生労働省編 出版社：フレーベル館 書 名：幼稚園教育要領解説 平成 30 年 3 月 著者名：文部科学省編 出版社：フレーベル館 書 名：幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成 30 年 3 月 著者名：内閣府 文部科学省 厚生労働省編 出版社：フレーベル館				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。		現代の子どもを取り巻く物的・人的環境を理解する。 ○					
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。		教育・保育施設の環境構成図を作成する。 ◎					
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		子どもの発達にかかわる身近な環境について理解する。 ○					
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		子どもを取り巻く自然環境について調べる。また、手づくり教材見本を作成する。 ◎					
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		子どもを取り巻く環境下の命ある生き物や植物などの好ましい取り扱いができる。 ○					
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		子どもを取り巻く環境の課題について考える。 ○					
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4 つの力)		能力要素(13 の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性		子どもを取り巻く環境に積極的に関わろうとする。 ○				
		② 働きかけ力		子どもを取り巻く環境に自分から働きかけようと努力する。 ○				
		③ 実行力						
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力		現代の子どもを取り巻く環境について課題を見つける。 ◎				
		② 計画力		環境を通した保育・教育の実践における計画の重要性を理解する。 ○				
		③ 創造力		身近な自然物を使った保育内容を考えることができる創造性を身に付ける。 ◎				
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力		現代の子どもを取り巻く環境について課題について発信し、共有する。 ○				
		② 傾聴力						
		③ 柔軟性						
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性		命ある生き物や植物に関する好ましい取り扱いができる。 ○				

※1 ○:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される
 ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される
 △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
 ※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く
 ○:通常の状況で発揮する力が身に付く
 △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価									
評 価 方 法		試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
指標と評価割合									
総 合 評 価 割 合		50			20	30			100
評 価 の 指 標	知識に関する評価	50			5	5			60
	技能に関する評価				5	20			25
	応用力に関する評価				5	5			10
	チームワーク力に関する評価								0
	関心・意欲に関する評価				5				5
具 体 的 な 達 成 の 目 安									
理想的な達成レベルの目安				標準的な達成レベルの目安					
さまざまな教材見本づくりや調べ学習に意欲的に取り組み、創造的な指導案・環境構成図を作成することができる。				さまざまな教材見本づくりや調べ学習、指導案作成、環境構成図作成に取り組むことができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション 子どもと環境について学ぼう-幼児を取り巻く環境とは-	講義、グループトーク、発表	復習：テキストPart1. 第 1 章を読んでおく。 予習：授業で学んだ幼児を取り巻く環境について自身でまとめておく。	60
第 2 回 ／	保育内容・領域「環境」について学ぼう-保育内容の全体構成と領域「環境」-	講義、グループトーク、発表	復習：テキストPart1. 第 2 章を読んでおく。 予習：授業で学んだ幼児と環境について自身でまとめておく。	60
第 3 回 ／	保育内容・領域「環境」の展開について学ぼう-0 歳・1 歳以上 3 歳未満児・3 歳以上児における領域「環境」の展開-	講義、グループトーク、発表	復習：テキストPart1. 第 3 章を読んでおく。 予習：授業で学んだ保育内容・領域「環境」の展開について自身でまとめておく。	60
第 4 回 ／	保育の過程について学ぼう-保育の過程・計画・評価-	講義、グループトーク、発表	復習：テキストPart1. 第 4 章を読んでおく。 予習：授業で学んだ保育の過程について自身でまとめておく。	60
第 5 回 ／	ものとかかわりの実践について学ぼう-0 歳・1 歳以上 3 歳未満・3 歳以上児とものとかかわり-	講義、グループトーク、発表	復習：テキストPart2. 第 1 章を読んでおく。 予習：授業で学んだものとかかわりの実践について自身でまとめておく。	60
第 6 回 ／	自然とかかわりの実践について学ぼう-自然の特性や酒類・子どもと自然とかかわり-	講義、グループトーク、発表	復習：テキストPart2. 第 2 章を読んでおく。 予習：授業で学んだ自然とかかわりについての実践について自身でまとめておく。	60
第 7 回 ／	数量・図形とかかわりの実践について学ぼう-子どもの生活や遊びと数量・図形-	講義、グループトーク、発表	復習：テキストPart2. 第 3 章を読んでおく。 予習：授業で学んだ数量・図形とかかわりの実践について自身でまとめておく。	60
第 8 回 ／	標識・文字とかかわりの実践について学ぼう-子どもの生活や遊びと標識・文字-	講義、グループトーク、発表	復習：テキストPart2. 第 4 章を読んでおく。 予習：授業で学んだ標識・文字とかかわりの実践について自身でまとめておく。	60
第 9 回 ／	身近な情報とかかわりの実践について学ぼう-子どもを取り巻く情報環境-	講義、グループトーク、発表	復習：テキストPart2. 第 5 章を読んでおく。 予習：授業で学んだ身近な情報とかかわりの実践について自身でまとめておく。	60
第 10 回 ／	身近な施設・地域、さまざまな文化とかかわりの実践について学ぼう-地域の施設や人々・様々な文化-	講義、グループトーク、発表	復習：テキストPart2. 第 6 章を読んでおく。 予習：授業で学んだ身近な施設・地域、さまざまな文化とかかわりについて自身でまとめておく。	60
第 11 回 ／	行事とかかわりの実践について学ぼう-行事の意義・行事の種類-	講義、グループトーク、発表	復習：テキストPart2. 第 7 章を読んでおく。 予習：授業で学んだ行事とかかわりの実践について自身でまとめておく。	60
第 12 回 ／	遊びを通した総合的な指導の展開について学ぼう-主体的・対話的で深い学びにつながる活動実践-	講義、グループトーク、発表	復習：テキストPart3. 第 1 章を読んでおく。 予習：授業で学んだ遊びを通した総合的な指導の展開について自身でまとめておく。	60
第 13 回 ／	小学校との連携・接続の実践について学ぼう-接続期カリキュラムとその実践-	講義、グループトーク、発表	復習：テキストPart3. 第 2 章を読んでおく。 予習：授業で学んだ小学校との連携・接続の実践について自身でまとめておく。	60
第 14 回 ／	領域「環境」にかかわる現代的課題について学ぼう-ESD・多文化共生・ユニバーサルデザイン・インクルーシブと保育-	講義、グループトーク、発表	復習：テキストPart3. 第 3 章を読んでおく。 予習：授業で学んだ領域「環境」にかかわる現代的課題にかかわる現代的課題について自身でまとめておく。	60
第 15 回 ／	総括-子どもを取り巻く環境のまとめ-	講義、グループトーク、発表	予習：テキストの今まで習ったPart と章を読んでおく。	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単 位	必 選 区 分	授 業 方 法	該 当 年 次	開 講 期	
領域に関する専門的事項 言葉		幼児と言葉 Infants and Language		2 単位	必 修	講 義	2 年次	春学期	
授業科目の学修教育目的・目標									
学 修 教 育 目 的	言葉を通じた表現の広がりや深まりを追究し、保育者と子ども相互間の「表現と理解」について再認識する。								
	キーワード 絵本 読み語り 制作 文化		学修教育目標 保育者として子どもの発達段階の応じた豊かな表現を引き出す指導方法と技法を学び、保育の場で実践できることを目指す。						
授業科目の概要及び学修上の助言									
授業では、教材の選択・読み聞かせの実践法を学び、教材を作成して発表する等、実習での実践に役立つものとする。 0 歳から 3 歳未満児の言語発達とボディランゲージを学び、オノマトピアを強調した絵本を作り、読み聞かせをする。3 歳から 6 歳未満児の言語発達と保育財（該当年齢のこども文化）を学び、ストーリーとセリフを強調した絵本を作り、読み語りをする。									
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能									
保育内容（言葉）の理論と方法、乳幼児の言語発達に関する科目、言語表現・身体表現・造形表現に関する科目が必要です。手遊びや歌唱力が予備技能として必要です。									
教 科 書				参 考 書・リザーブブック					
なし				『保育所保育指針』厚生労働省 『幼稚園教育要領』文部科学省 『認定こども園教育要領』内閣府					
No.	学 科 教 育 目 標		学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標 （※1）						
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。		乳幼児の言語発達状態を理解し、発達特性の差異に対応する。						○
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。		3 歳未満児への読み聞かせ、3 歳以上児への読み語りができる。						◎
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		非言語表現とオノマトピアを理解する。						○
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		ボディランゲージと言語最近接領域の支援を身につける。						○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		ひとり一人の乳幼児に寄り添う意味を考える。						○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		乳幼児の興味・関心を反映する。						△
授業科目における社会人基礎力の育成目標									
分類(4 つの力)		能力要素(13 の要素)		授 業 科 目 に お け る 育 成 目 標 （※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性		自分でプロットを立案する。					△
		② 働きかけ力							
		③ 実行力		3 歳未満児と 3 歳以上児の絵本をつくる。					◎
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力							
		② 計画力		乳幼児の興味・関心を取り入れる。					◎
		③ 創造力		オリジナルの絵本をめざす。					△
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力		読み聞かせや読み語りのポイントを評価しあう。					○
		② 傾聴力							
		③ 柔軟性		臨機応変にアレンジする方法を学ぶ。					△
		④ 状況把握力		模擬保育で乳幼児の反応を想定する。					△
		⑤ 規律性							
		⑥ ストレスコントロール力							
4. 倫理観		① 倫理性		生命を伝える内容を目指す。					○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			45		10	20	20	5		100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		9		2	4	4			19
	技能に関する評価		9		2	4	4			19
	応用力に関する評価		9		2	4	4			19
	チームワーク力に関する評価		9		2	4	4			19
	関心・意欲に関する評価		9		2	4	4	5		24
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
乳幼児一人ひとりの持ち味に対応した言語表現ができる。					乳幼児を意識した言語表現ができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	言語表現とは	講義	子供と遊び、文化の概念を 大きくくりでとらえる	30
	ガイダンス 子どもの文化理解 わたしと親とのあそび文化比較			
第 2 回 ／	保育の中で児童文化を考える（メディアの中の子ども）	講義	主人公の人生を考える	20
第 3 回 ／	児童文化の歴史と子どもの生活	講義	子どもの生活とあそびと社会についてとらえる	30
	オンデマンドに沿って課題を作成し、提出をする。			
第 4 回 ／	おはなしをおぼえる	講義及び演習	おはなしをもう一つ覚える。	30
	お話をおぼえて 発表しあうレポート作成			
第 5 回 ／	乳幼児のあそびうた ～わらべうた～	講義及び演習	わらべ歌を振り返り、絵描き歌をつくる	30
	わらべ歌を知る、 絵描き歌をつくる			
第 6 回 ／	言葉を育てる環境① おはなしに関する用語 p36	講義及び演習	様々な絵本と出会う、絵本の分類	30
	よみきかせの実際から学ぶ			
第 7 回 ／	今日的な課題を扱った絵本	講義及び演習	テーマにあった絵本を選ぶ	20
	LGBT シングル家庭などを扱った絵本から考え、分析をすることができる			
第 8 回 ／	絵本の分類絵本と出会う p48	講義及び演習	絵本を分類し、よみきかせの練習をする	20
	紙芝居の文化、紙縛りの活用 紙芝居づくりの準備			
第 9 回 ／	おはなしづくり 1	演習	ものを主人公にみたてて おはなしをつくる	40
	ものに命を吹きかける			
第 10 回 ／	おはなしづくり その 2	演習	お話づくり 応用編	30
	素話の仕方の理解 身振り手振り②			
第 11 回 ／	ペープサートづくり	実習	ペープサートの練習	40
	お話づくりワークショップ			
第 12 回 ／	ペープサートの発表	演習	パペットを作ってみる	60
第 13 回 ／	パペットとお話づくり②	演習	パペットとお話づくり	30
	パペットの操作とおはなしづくり			
第 14 回 ／	折り紙人形	実習 演習	既知の絵本表現をアレンジすることについて深める	90
	表現についてまなぶ			
第 15 回 ／	まとめ おはなしかい	演習	ふりかえり	90
	今までの学修をふりかえる			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとにに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
領域に関する専門的事項 表現		幼児と造形表現 Infants and Molding Expression		2 単位	必 修	講 義	2 年次	春学期	
授業科目の学修教育目的・目標									
学修教育目的	領域「表現」のねらい及び内容、子供の表現の在り方や発達、特性について理解し、幼児教育に携わる教育者として必要な感性や創造性を豊かにする多様な表現あそびや環境構成などの基本的な知識・技能を実践的に学ぶ。								
	キーワード 造形表現 乳児 幼児の表現活動 実践授業、対話型授業 アクティブラーニング プレゼンテーション ペーパーサート	学修教育目標	領域「表現」のねらい及び内容を理解する。 子どもの表現のあり方や描画の発達について理解する。 実制作を行った後に指導に必要な事項を振り返り記述し、現場で役立つ経験を身に着け資料を作成する。 共通のテーマで協同制作に取り組み、表現活動の共有と相互評価を行い主体的な学びを行う。 伝える技術を習得し実践を行い、発表後の考察を行い課題を見つける。						
授業科目の概要及び学修上の助言									
個人制作、協同制作の発表と評価を行う。 個人で取り組む造形表現の実践制作とその振り返りは、成果を提出する。欠席した場合も課外時間に取り組み提出することが望ましい。									
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能									
保育内容(表現)の理論と方法									
教 科 書				参考書・リザーブドブック					
幼稚園教育要領/保育所保育指針/幼保連携型認定こども園教育・保育要領				〈感じること〉からはじまる子どもの造形表現-理論と実践事例から学び, 考えよう (教育情報出版)					
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。		領域「表現」のねらい及び内容を理解し、制作とその振り返りを通じて専門的な知識を得る。						○
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。		制作と振り返りを通じて、必要な技能を身につけ現場で活用できるようになる。						○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		子どもの発達について学び、発達を意識した振り返りを行い知識の確認を行う。						○
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		子どもの発達について学び、発達を意識した制作を行い技能の習得と発達に合わせた関わりを意識する。						○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		子どもの教育・支援に関する工夫について学び、専門職として使命感、責任感、倫理観の伴う行動を意識する。						△
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		制作発表後に考察と振り返りを行い、課題解決のための取り組み手法の体験と、今後の活用を図る。						○
授業科目における社会人基礎力の育成目標									
分類(4 つの力)		能力要素(13 の要素)	授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性	提案に対して自ら調査や想定を行い表現を行う。						◎
		② 働きかけ力	制作において発展的な提案を行う。						○
		③ 実行力	発展的な提案に対して実際に形として表す。						△
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力	意図を明確にして伝える内容を明らかにする。						○
		② 計画力	材料、時間、人員などの制約を守り、計画に基づき成果作品とその発表を完成させる。						○
		③ 創造力	ねらいを明確にして工夫を行い実行する。						○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力	伝える技術を習得し発表で生かす。						◎
		② 傾聴力	他者の意見を取り入れる 他者の作品や発表をしっかりと注意深く見聞きして評価する。						○
		③ 柔軟性	異なる意見や提案に対して、利点欠点を考察して建設的な対応を行い制作に生かす。						△
		④ 状況把握力	得意分野や立場の違いを伝え合い理解を図る。						△
		⑤ 規律性	提出日、発表時間を把握して守る。						○
		⑥ ストレスコントロール力	発表を行い意図した内容を伝える体験をする。						△
4. 倫理観		① 倫理性	教諭としての責任と自覚を持ち、子どもの発達特性を理解して相手の立場に立った行動を心がける。						○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			45		10	15	15	15		100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		30							30
	技能に関する評価						15	15		30
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価					15				15
	関心・意欲に関する評価		15		10					25
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
領域「表現」のねらい及び内容と子どもの発達について理解し自ら調査模索を進め、造形表現実践とその振り返りににおいて必要な知識と技術の習得に加えて発展的な提案を行い現場を想定し実行に移す。 協同制作に積極的に取り組みグループの状況を把握し意見の折衝を行い、表現活動の共有と相互評価を体験し主体的な学びを今後の課題解決に繋げる。					領域「表現」のねらい及び内容と子どもの発達について理解し、造形表現実践とその振り返りを行い必要な知識と技術を身につける。 協同制作に取り組み、表現活動の共有と相互評価を体験し主体的な学びを行う。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	授業概要の説明 持ち物と授業形態、課題について 描画造形表現実践 カーボン紙絵	資料と教科書を使用した講義形式 制作時個別対応	実践のまとめと振り返りを記述する	30
	領域「表現」への理解、実践のまとめと振り返り			
第 2 回 ／	描画造形表現実践 クレパスカーボン、ひっかき絵	資料を使用した講義形式 制作時個別対応	実践のまとめと振り返りを記述する	30
	実践のまとめと振り返り			
第 3 回 ／	描画造形表現実践 クレパスステンシル	資料を使用した講義形式 制作時個別対応	実践のまとめと振り返りを記述する	30
	実践のまとめと振り返り			
第 4 回 ／	描画造形表現実践 こすり出し 自然と子どもの関わり	資料を使用した講義形式 制作時個別対応	実践のまとめと振り返りを記述する	30
	実践のまとめと振り返り			
第 5 回 ／	工作造形表現実践 2つ折からの造形	資料を使用した講義形式 制作時個別対応	実践のまとめと振り返りを記述する	30
	実践のまとめと振り返り			
第 6 回 ／	工作造形表現実践 複数折と切り抜き飾り	資料を使用した講義形式 制作時個別対応	実践のまとめと振り返りを記述する	30
	実践のまとめと振り返り			
第 7 回 ／	工作造形表現実践 飛び出すカード 切 1 折 2	資料を使用した講義形式 制作時個別対応	実践のまとめと振り返りを記述する	30
	実践のまとめと振り返り			
第 8 回 ／	工作造形表現実践 ふわふわふうせん ペーパーサートの制作と実演	資料を使用した講義形式 制作時個別対応	実践のまとめと振り返りを記述する	30
	実践のまとめと振り返り			
第 9 回 ／	領域「表現」の意義と描画発達分類について	資料を使用した講義形式	参考資料を用いて復習を行う	30
	領域を意識した学び			
第 10 回 ／	伝える技術 1_話し方	資料を使用した講義形式	参考資料を用いて体験の振り返りを行う	30
	ICT の活用と関わり			
第 11 回 ／	グループワーク導入と概説 ペーパーサートについて	資料を使用した面接授業と協同制作	取り組みのテーマを明らかにする	30
	テーマ設定への取り組みと意欲			
第 12 回 ／	アクティブ・ラーニング、グループワーク ペーパーサート グループ制作 1	個別対応面接授業と協同制作	協同制作に関する調査と作業進行	30
	協同制作への取り組みと意欲			
第 13 回 ／	アクティブ・ラーニング、グループワーク ペーパーサート グループ制作 2	個別対応面接授業と協同制作	協同制作に関する調査と作業進行	30
	協同制作への取り組みと意欲			
第 14 回 ／	制作発表と講評	発表への講評と資料を使用した講義形式	他者からの評価をふまえて表現や意図を考察する	30
	協同で表現活動を行い、意図を伝える 他者の評価を行う			
第 15 回 ／	自己点検振り返り、学期末試験内容告知	資料を使用した講義形式	発表後の考察を行い課題を見つける 学期末試験内容に備える	30
	自己課題、他者からの評価をふまえて活動を振り返り次回へ活かす			

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
領域に関する専門的事項 表現		図工科概論 Introduction to Arts and Crafts		2 単位	必 修	講 義	1 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	子どもの造形表現の発達や造形の意味について理解を深める。 小学校学習指導要領における図画工作科の指導において必要とされる知識及びその内容を理解し、子どもの表現能力を引き出す教育についての理論と実際を学修する。							
キーワード	図工科概論 子ども・造形・表現・特性・素材・教材	学修教育目標	子どもの造形表現の発達段階を学習し、造形教育のありようを理解し、説明できる。 教科の目標と内容を理解するとともに実際の体験を通して授業における基礎技法習得や指導の実践力と評価を身につけ、造形素材のもつ特性や教材としての可能性に注目し、素材を生かした教材作りができる。					
授業科目の概要及び学修上の助言								
・理論と実際を学修することで、相互に理解を深め造形の概念の統合を図る。 ・作品の評価基準については、グループワーク等でのディスカッションを通し、共に考え造形表現の意味について考察する。 ・授業での配布物はワークシートとして保存し、受講時に持参する。 ・単元ごとの授業終了後に必要に応じて課題レポートを提出、授業内容の習得状況と振り返りをする。 ・事前学習・ふり返りを重視する。 ・作品の評価等については、グループワークや発表を実施し、活発な討議を期待する。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
・保育所（園）、幼稚園施設などへのボランティアやインターンシップ活動には積極的に参加を促し、現地レポーターとして授業等で発表する。 ・保育所、幼稚園、小学校等における行事の参観や美術館のイベントに積極的に出向き、自身の感性をより豊かにするように推奨・期待する。 ・毎回の授業での配布物は、ファイリング保存しポートフォリオとして活用する。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
書 名：小学校図画工作の基礎 著者名：樋口一成 他 出版社：萌文書林				小学校学習指導要領解説「図画工作」文部科学省（文教出版）				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・保育士・小学校教諭に必要な専門知識(教育要領・保育指針・学習指導要領 等)を身につける。		子どもの心身の発達段階が理解できる。 △					
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。		様々な素材の表現方法を知る。 ○					
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		素材体験を通して、子どもの表現活動についての発達段階を知る。 △					
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		素材の特性や教材としての可能性に触れ、子どもの造形表現について理解できる。 ○					
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		幼児教育(間接教育)から小学校教育課程(直接教育)への教育の連続性に鑑み、子どもを支援していく方策を考える。 △					
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		実際の体験を通じて、造形素材のもつ特性や教材を生かし造形教育の可能性に注目する。 ○					
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性	自分なりに判断して自発的にとりくむことができる。 ◎					
		② 働きかけ力						
		③ 実行力						
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力						
		② 計画力						
		③ 創造力	自身の発想を生かし、豊かな創造性が発揮できる。 ○					
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力	自分の意見を具体的に分かりやすく伝えることができる。 ○					
		② 傾聴力	相手の意見を最後までしっかり聞くことができる。 ○					
		③ 柔軟性						
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性						

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価									
評 価 方 法		試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (受講態度 等)	合 計
指標と評価割合									
総 合 評 価 割 合		41		15	9	25		10	100
評 価 の 指 標	知識に関する評価	25		5	2	5			37
	技能に関する評価	10		5	2	10			27
	応用力に関する評価	3		2	3	5			13
	チームワーク力に関する評価								
	関心・意欲に関する評価	3		3	2	5		10	23
具 体 的 な 達 成 の 目 安									
理想的な達成レベルの目安				標準的な達成レベルの目安					
子どもの造形表現の発達や造形の意味について理解する。また、造形表現の理論と技能の習得および実践の相互に理解を深め、統合した取り組みができる。				子どもの造形表現の発達を知り、実際の体験を通じて子どもの表現教育についての理論と実際を理解する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション（講義内容の説明、進め方、成績評価の説明等） 子どもの発達と造形表現、『表現』とは何か。H. リードの「表現活動を通じた教育」および 子どもの表現について① ミニ作品制作	講義、グループトーク、発表、まとめ	事前にシラバスを読んでおく。 授業時に適時指示した課題（以下、毎回、時間共に同じ）	60
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 2 回 ／	制作した作品の相互評価と講評 テキスト配布「幼児の造形表現から図画工作教育へ」 子どもの表現について②	講義、グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 3 回 ／	幼児の「あそびと造形表現」、幼児教育における目標と内容を知る(幼稚園・こども園教育要領・保育所指針)	講義、グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 4 回 ／	子どもの表現についての発達過程	講義、グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 5 回 ／	幼児造形教育から図画工作教育への連続性、学習指導要領とは何か？	講義、グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 6 回 ／	図画工作のねらい（「A 表現」）	講義、グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 7 回 ／	図画工作のねらい（「B 鑑賞」、共通事項について）	講義、グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 8 回 ／	図画工作教育の目標と内容 材料をもとにした造形遊びをする活動（低学年・中学年） ミニ作品制作	講義、グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 9 回 ／	図画工作教育の目標と内容 材料をもとにした造形遊びをする活動（中学年・高学年） ミニ作品制作	講義、グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 10 回 ／	「造形遊び」の実践と作品制作① 作品制作と個別指導	講義、グループトーク、発表、まとめ 作品制作の実践		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 11 回 ／	「造形遊び」の実践と作品制作② 作品制作と個別指導と講評	講義、グループトーク、発表、まとめ、作品制作の実践		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 12 回 ／	作品制作に役立つ様々なモダンテクニックの実践① 制作と個別指導	講義、グループトーク、発表、まとめ、実践と制作		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 13 回 ／	作品制作に役立つ様々なモダンテクニックの実践② 制作と個別指導	講義、グループトーク、発表、まとめ、実践と制作		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 14 回 ／	作品制作に役立つ様々なモダンテクニックの実践③ 制作と個別指導 制作した作品の相互評価と講評 試験にむけて	講義、グループトーク、発表、まとめ、実践と制作		
	ワークシート・課題レポート・実践演習			
第 15 回 ／	図画工作における評価、評価の意義、評価活動の要点図画工作の学習指導 学習指導案の作成、試験内容および振り返り	講義、グループトーク、発表、まとめ		
	ワークシート・課題レポート			

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）									
授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
領域及び保育内容の指導法に関する科目 保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		保育内容総論 General Remarks to Contents of Nursing		2 単位	必 修	講 義	1 年次	秋学期	
授業科目の学修教育目的・目標									
学修教育目的									
	幼稚園、保育所の役割・機能を知り、乳幼児の豊かな発育・発達を保障していく際に必要な事項について学修する。								
キーワード			学修教育目標						
	幼稚園・保育所の役割 幼稚園・保育所の機能 発達保障 保育ニーズ			幼稚園教育、保育において「育みたい資質・能力」を理解し、5つの領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）のねらい及び内容の概要と各専門領域と関連性、幼児の発達に即した、主体的・対話的な深い学び等を踏まえながら、具体的指導場面を想定した保育内容を計画、実行できる。					
授業科目の概要及び学修上の助言									
幼稚園・保育所の役割・機能を学ぶ中で、現代の保育ニーズを理解する。 現代の保育ニーズは、今日の社会のどのような変化からもたらされているものなかを理解するため、ニュースや新聞などにも目を通して考えるようにすること。									
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能									
保育内容総論（演習）の基礎となる学びであることを理解し、社会事象に興味を持ち、わからないことは自ら調べるようにすること。									
教 科 書				参考書・リザーブブック					
書 名：演習 保育内容総論 保育の総合性を読み解く 著者名：神田伸生 高橋貴志 出版社：萌文書林				『幼稚園教育要領（最新版）』文部科学省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領（最新版）』内閣府 『小学校学習指導要領（最新版）』文部科学省 『生徒指導提要（最新版）』文部科学省					
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。		保育思想の歴史的変遷をたどり、今日的意義を理解する。 現代の保育ニーズの多様性を理解する。						◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。								
③	子どもの発達に関する知識を身につける。								
④	子どもの発達に関する技能を身につける。								
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		保育士としての責任、関わりの具体についてイメージができること						○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		子どもを取り巻く環境についての課題を理解し自らの取り組むべきことをイメージできること						○
授業科目における社会人基礎力の育成目標									
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性		保育に関連する内容について、積極的に情報収集しようとする。					△
		② 働きかけ力							
		③ 実行力							
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力		保育内容について分析、理解する。					◎
		② 計画力		問題解決のプロセスを明らかにするため努力する。					△
		③ 創造力							
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力							
		② 傾聴力							
		③ 柔軟性		相手の意見や立場を理解し、尊重することができる。					○
		④ 状況把握力		保育者の役割を理解し、状況に応じた保育内容を考えようとする。					◎
		⑤ 規律性							
		⑥ ストレスコントロール力							
4. 倫理観		① 倫理性		保育者としての資質を身に付ける。					○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
		総 合 評 価 割 合	50		50					100
評 価 の 指 標	知識に関する評価	50		20						70
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価			20						20
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価			10						10
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
保育思想の歴史的変遷をたどり、今日的意義を理解したうえで、現代の保育ニーズの多様性を理解する。					保育思想の歴史的変遷をたどり、今日的意義を理解し、現代の保育ニーズの多様性を知る。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション ―保育者の役割	講義	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 2 回 ／	幼稚園教育及び保育の基本とねらい、全体構造① 総論	講義	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 3 回 ／	幼稚園教育及び保育の基本とねらい、全体構造② 健康	講義	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 4 回 ／	幼稚園教育及び保育の基本とねらい、全体構造③ 人間関係	講義	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 5 回 ／	幼稚園教育及び保育の基本とねらい、全体構造④ 環境	講義	指導案作成練習① 3 歳児	60
	確認課題、授業参加状況による意欲の評価			
第 6 回 ／	幼稚園教育及び保育の基本とねらい、全体構造④ 音楽	講義	指導案作成練習② 4 歳児	60
	確認課題、授業参加状況による意欲の評価			
第 7 回 ／	幼稚園教育及び保育の基本とねらい、全体構造⑤ 表現	講義	指導案作成練習③ 5 歳児	60
	確認課題、授業参加状況による意欲の評価			
第 8 回 ／	指導案の作成	講義	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 9 回 ／	幼児理解と評価の基本	講義	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 10 回 ／	適切な幼児理解と評価	講義	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 11 回 ／	教材や情報機器の研究及び有効的な活用とその実践事例	講義	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 12 回 ／	幼児理解と評価の実際 ―模擬保育実践事例を通しての理解―	講義	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 13 回 ／	小学校との連携 ―幼稚園幼児指導要録に基づく―	講義	教科書指定箇所の予習、復習	30
	ディスカッションによる意欲・応用力等の評価			
第 14 回 ／	小学校の評価の考え方と連携性について	講義	教科書指定箇所の予習、復習	30
	ディスカッションによる意欲・応用力等の評価 確認課題による知識・応用力の評価および授業参加状況による意欲の評価			
第 15 回 ／	まとめ ―全体の確認と振り返り―	講義	教科書指定箇所の予習、復習	50

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
領域及び保育内容の指導法に関する科目 保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		保育内容（健康）の理論と方法 Theory and Method to Contents of Nursing（Health）		2 単位	必 修	講 義	2 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的								
	乳幼児の健康と子どもが健康的に生活するのに必要な助言と援助ができること。							
キーワード	健康領域、乳幼児の心身の特徴、基本的な指導事項		学修教育目標	幼稚園教育、保育において「育みたい資質・能力」を理解し、心身の健康に関する領域「保育内容（健康）」のねらい及び内容について、幼児の発達に即した、主体的・対話的な深い学びが実現する過程を踏まえながら、具体的指導場面を想定した保育内容を計画、実行できる。				
授業科目の概要及び学修上の助言								
1．乳幼児の心身の特徴と発達課題を理解し基本的な援助の留意点を理解する。 2．幼稚園教育要領や保育所保育指針に示されている健康領域の内容と指導事項を理解する。 3．健康領域の内容の指導案を作成できる。 4．幼稚園教諭、保育士を目指す学生としての心構え・姿勢など望ましい態度を養う。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
乳幼児の発達に関わる他の領域「環境」、「人間関係」等における基礎的知識								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
『幼稚園教育要領解説（最新版）』文部科学省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領（最新版）』厚生労働省				『小学校学習指導要領（最新版）』文部科学省 『生徒指導提要（最新版）』文部科学省				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。		健康領域の「ねらい」とねらいを達成するために内容（指導する事項）を理解する。					◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。		健康領域の「ねらい」とねらいを達成するために指導する事項を行う指導技能を身に付ける。					○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		乳幼児の心身の特徴と発達課題を理解する。					◎
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		乳幼児の心身の特徴と発達課題に即した指導が行える基本的な技能を身に付ける。					○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		乳幼児期に対する保育や教育における健康作りを行う上での使命感、安全確保などの責任感、並びに個人情報や特別な支援を有する子への合理的配慮などの倫理観を身に付ける。					◎
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		乳幼児期に対する保育や教育における健康作りの知識や技能を実習などの教育現場において活用することができる。					◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性	自らの意思で積極的に学修を進めることができる。					○
		② 働きかけ力						
		③ 実行力	目的を設定し問題が解決するまで取り組むことができる。					△
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力	現状を分析し目的や課題を明らかにすることができる。					○
		② 計画力	課題の解決に向けた具体的・実践的な方法を明らかにすることができる。					○
		③ 創造力	従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。					○
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力	自分の意見をわかりやすく他者に伝えることができる。					○
		② 傾聴力						
		③ 柔軟性						
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性						

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			50		30				20	100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		50		20					70
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価				10					10
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価								20	20
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
1. 講義内容を配布のレジメにまとめる。さらに自分のコメントを書き込める。 2. 調べ学習では積極的に行動する。さらに調べたことを発表することができる。					1. 講義内容を配布のレジメにまとめる。 2. 調べ学習では積極的に行動する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション　ー保育内容（健康）とは	講義法	資料の収集と整理	30
	ノート点検と観察			
第 2 回 ／	心身の健康に関する領域「保育内容（健康）」の基本	講義法	資料の収集と整理	30
	ノート点検と観察			
第 3 回 ／	心身の健康に関する領域「保育内容（健康）」のねらい	講義法	資料の収集と整理	30
	ノート点検と観察			
第 4 回 ／	心身の健康に関する領域「保育内容（健康）」の内容	講義法と調べ学習	資料の収集と整理	30
	ノート点検と観察			
第 5 回 ／	乳幼児の「健やかな心と身体」① ー乳幼児の発達、生活リズムや生活習慣	講義法と調べ学習	資料の収集と整理	30
	ノート点検と観察			
第 6 回 ／	乳幼児の「健やかな心と身体」② ー遊びと活動意欲	講義法と調べ学習	資料の収集と整理	30
	ノート点検と観察			
第 7 回 ／	乳幼児の「健やかな心と身体」③ ー安全と保育指導、食育	講義法と調べ学習	資料の収集と整理	30
	ノート点検と観察			
第 8 回 ／	心身の健康に関する領域「保育内容（健康）」の保育方法① ー不安障害などに配慮した指導案の作成	講義法と調べ学習	資料の収集と整理	30
	ノート点検と観察			
第 9 回 ／	心身の健康に関する領域「保育内容（健康）」の保育方法② ー教材や情報機器の研究及び活用	講義法	資料の収集と整理	30
	ノート点検と観察			
第 10 回 ／	心身の健康に関する領域「保育内容（健康）」の保育方法③ ー指導上の留意事項（認知特性を踏まえた合理的配慮）	講義法	資料の収集と整理	30
	ノート点検と観察			
第 11 回 ／	心身の健康に関する領域「保育内容（健康）」の保育方法④ ー評価と改善	講義法	資料の収集と整理	30
	ノート点検と観察			
第 12 回 ／	心身の健康に関する領域「保育内容（健康）」の保育方法⑤ ー模擬保育実践事例を通しての理解ー	協働学習	資料の収集と整理	30
	レポートの点検と協働学習の観察			
第 13 回 ／	小学校の授業と保育の違い	協働学習	資料の収集と整理	30
	レポートの点検と協働学習の観察			
第 14 回 ／	これからの保育と心身の健康に関する領域「保育内容（健康）」の内容	協働学習	資料の収集と整理	30
	レポートの点検と協働学習の観察			
第 15 回 ／	まとめ　ー全体の確認と振り返りー	協働学習	資料の収集と整理	30
	レポートの点検と協働学習の観察			

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段：英名表記）		単 位	必 選 区 分	授 業 方 法	該 当 年 次	開 講 期
領域及び保育内容の指導法に関する科目 保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		保育内容（人間関係）の理論と方法 Theory and Method to Contents of Nursing (Human Relationship)		2 単位	必 修	講 義	2 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	子どもの人間関係のひろがりを理解し、それぞれの段階における身近な人との関わりの中で、どのように自立心が育ち、人とのかかわる力が養われていくのかを学修する。							
	キーワード 人間関係 自立心 指導力	学修教育目標 幼稚園教育、保育において「育みたい資質・能力」を理解し、人との関わりに関する領域「保育内容（人間関係）」のねらい及び内容について、幼児の発達に即した、主体的・対話的な深い学びが実現する過程を踏まえながら、具体的指導場面を想定した保育内容を計画、実行できる。						
授業科目の概要及び学修上の助言								
保育の5領域の中の「人間関係」とは、何を学ぶのかを深く理解する。乳幼児がかかわる身近な人とはどのような人か、子どもはその人たちから何を学び成長していくのかを学修する。また、自らがかかわってきた人たちが、自分の生き方にどのように影響しているのかを考察する。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
「幼児理解の理論と方法」「乳幼児保育」での、発達の理解との関連があるので、乳幼児の発達を理解しておくこと。								
教 科 書				参 考 書 ・ リ ザ ー ブ ド ブ ッ ク				
書 名：子どもの姿からはじめる 領域・人間関係 著者名：秋田喜代美 三宅茂夫監 出版社：（株） みらい				授業内に適宜指示する。				
No.	学 科 教 育 目 標		学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標 （※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。							
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。							
③	子どもの発達に関する知識を身につける。							
④	子どもの発達に関する技能を身につける。							
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。							
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		幼児教育・保育の場における諸問題と、その解決のための指導力を身につける。 ◎					
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性	課題や問題に対して、解決のために積極的に取り組む。					○
		② 働きかけ力						
		③ 実行力						
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力	現状を分析し、目的や問題を明らかにする。					◎
		② 計画力	明らかにされた課題や問題の解決のための指導案を作成する。					△
		③ 創造力						
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力						
		② 傾聴力						
		③ 柔軟性	他者との意見の食い違いや、立場の違いを理解する。					△
		④ 状況把握力	課題や問題の起こる状況を把握し、行動する。					◎
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性	保育者としての倫理観を身に付ける。					○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			50			50				100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		50			50				100
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
幼児の発達に即した、主体的・対話的な深い学びが実現する過程を踏まえながら、具体的指導場面を想定した保育内容を計画して実行できる。					幼稚園教育、保育において「育みたい資質・能力」を理解し、人との関わりに関する領域「保育内容（人間関係）」のねらい及び内容について理解する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	－保育内容（人間関係）とは	講義、演習	教科書の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 2 回 ／	人との関わりに関する領域「保育内容（人間関係）」の基本	講義、演習	教科書の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 3 回 ／	人との関わりに関する領域「保育内容（人間関係）」のねらい	講義、演習	教科書の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 4 回 ／	人との関わりに関する領域「保育内容（人間関係）」の内容	講義・演習	教科書の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 5 回 ／	乳幼児の「人との関わり」① －乳幼児の発達と人とのかかわり	講義、演習	教科書の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 6 回 ／	乳幼児の「人との関わり」② －人とのかかわりと遊び、遊びの中での人とのかかわり	講義、演習	教科書の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 7 回 ／	人との関わりに関する領域「保育内容(人間関係)」の保育方法① －指導案の作成、教材や情報機器の研究及び活用	講義、演習	教科書の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 8 回 ／	人との関わりに関する領域「保育内容(人間関係)」の保育方法② －指導上の留意事項	講義、演習	教科書の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 9 回 ／	人との関わりに関する領域「保育内容(人間関係)」の保育方法③ －評価と改善	講義、演習	教科書の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 10 回 ／	人との関わりに関する領域「保育内容(人間関係)」の保育方法④ －模擬保育実践事例を通しての理解－	講義、演習	教科書の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第 11 回 ／	人とのかかわりが難しい子どもへの支援	講義、演習	教科書の予習、復習	30
	指導案作成による知識・応用力の評価および授業参加状況による意欲の評価			
第 12 回 ／	園、家庭、地域の生活と人とのかかわり	講義、演習	教科書の予習、復習	30
	指導案作成による知識・応用力の評価および授業参加状況による意欲の評価			
第 13 回 ／	小学校の授業と保育内容（人間関係）の違い	講義、演習	教科書の予習、復習	30
	ディスカッションによる意欲・応用力等の評価			
第 14 回 ／	これからの保育と人との関わりに関する領域「保育内容(人間関係)」の内容	講義、演習	教科書の予習、復習	30
	ディスカッションによる意欲・応用力等の評価			
第 15 回 ／	人生の基礎を培う乳幼児期の「保育内容(人間関係)」	講義、演習	教科書の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段：英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
領域及び保育内容の指導法に関する科目 保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		保育内容（環境）の理論と方法 Theory and Method to Contents of Nursing（Environment）		2 単位	必 修	講 義	2 年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的	領域「環境」の指導で必要となる感性を養い、乳幼児を取り巻く環境とその現代的課題、乳幼児と身近な環境との関わりの発達について学修する。また、具体的な指導場面を想定しながら保育を構想し、実践する力を身に付けていくことを目的とする。							
キーワード	現代の子どもを取り巻く環境	自然	生き物	環境構成	学修教育目標	1. さまざまな演習や身の周りの自然環境に触れることなどを通して領域「環境」の指導で必要となる感性を養う努力ができる 2. 乳幼児を取り巻く環境について知ることから、その現代的課題を考えることができる。 3. 環境が乳幼児に与える意味、環境を通して行う教育について理解できる。 4. 領域「環境」において育てたい資質・能力を基に、保育指導案の作成に取り組むことができる。 5. 保育・教育施設における環境構成の実際に関心を持ち、自らも環境構成を創造する力を養う。		
授業科目の概要及び学修上の助言								
身近な自然、生き物に興味を持ち、主体的に調べたり、関わりを持つことを推奨する。 ボランティアなどを通して、実際の子どもたちを取り巻く保育・教育施設の物的・人的環境について考える機会を持つことを推奨する。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
保育・教育実習においても本授業で学んだことが実践できる力を身に付ける。								
教 科 書				参考書・リザーブドブック				
書 名：新・保育内容「環境」 ラーニング・ストーリーで綴る学びの記録 著者名：永淵泰一郎編著 出版社：教育情報出版				書 名：保育所保育指針解説 平成 30 年 3 月 著者名：厚生労働省編 出版社：フレーベル館 書 名：幼稚園教育要領解説 平成 30 年 3 月 著者名：文部科学省編 出版社：フレーベル館 書 名：幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成 30 年 3 月 著者名：内閣府 文部科学省 厚生労働省編 出版社：フレーベル館				
No.	学 科 教 育 目 標			学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。			子どもを取り巻く環境とその現代的課題について理解する。				◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。			身近な自然環境を取り入れた環境づくりを創造することができる。				○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。			乳幼児のそれぞれの年齢と発達にふさわしい環境構成について理解する。				◎
④	子どもの発達に関する技能を身につける。			乳幼児の発達・成長にふさわしい環境を創造することができる。				○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。			安全への配慮、命ある生き物などへの望ましい接し方を身に付ける。				○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。			領域「環境」において育てたい資質・能力を基に指導案作成に取り組むことができる。				◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類（4 つの力）		能力要素（13 の要素）		授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性	子どもを取り巻く環境に関心を持ち、主体的に学ぶ。				◎	
		② 働きかけ力	身近な自然に興味を持ち、自ら働きかける。				○	
		③ 実行力						
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力	子どもを取り巻く環境の現代的課題を発見する。				◎	
		② 計画力	領域「環境」で育てたい資質・能力を基に指導案作成に計画的に取り組む。				◎	
		③ 創造力	自然を取り入れた環境構成を創造する力を養う。				○	
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力	自分の考えを相手に伝えることができる。				○	
		② 傾聴力	相手の考えを理解することができる。				○	
		③ 柔軟性						
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性	生命を伝える意義を理解する。				○	

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50			20		30		100
評価の指標	知識に関する評価		50					10		60
	技能に関する評価							5		5
	応用力に関する評価							5		5
	チームワーク力に関する評価							5		5
	関心・意欲に関する評価					20		5		25
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
子どもを取り巻く環境を知り、現代的課題について考えることができる。 さまざまな演習や身の周りの自然環境に触れることなどを通して領域「環境」の指導で必要となる感性を養う努力ができる。 環境が乳幼児に与える意味、環境を通して行う教育について理解できる。 保育指導案の作成に取り組むことができる。					子どもを取り巻く環境を知り、理解することができる。 さまざまな演習や身の周りの自然環境に触れるなどに取り組むことができる。 環境が乳幼児に与える意味、環境を通して行う教育について理解できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション 現代社会の乳幼児を取り巻く環境-乳幼児を取り巻く環境の特徴と課題-	講義、グループトーク、発表	予習：シラバス、テキスト第 1 部 1 章を読んでおく。 復習：1 章の学習ポートフォリオに取り組む。	60
	1 章の学習ポートフォリオ			
第 2 回 ／	乳幼児期の発達における環境との関わり-環境が与える意味と環境を通して行う教育とは-	講義、グループトーク、発表	予習：シラバス、テキスト第 1 部 2 章を読んでおく。 復習：2 章の学習ポートフォリオに取り組む。	60
	2 章の学習ポートフォリオ			
第 3 回 ／	乳幼児期・児童期の認知的発達-乳幼児期の思考力の育ちと児童期の認知発達の関係とは-	講義、グループトーク、発表	予習：シラバス、テキスト第 1 部 3 章を読んでおく。 復習：3 章の学習ポートフォリオに取り組む。	60
	3 章の学習ポートフォリオ			
第 4 回 ／	乳幼児の物理的、数量・図形、生物・自然との関わり-数量・図形との関わりについての活動例、生物・自然との関わりについての活動例-	講義、グループトーク、発表	予習：シラバス、テキスト第 1 部 4・5 章を読んでおく。 復習：4・5 章の学習ポートフォリオに取り組む。	60
	4・5 章の学習ポートフォリオ			
第 5 回 ／	乳幼児の標識・文字、情報・施設との関わり-標識・文字との関わりについての活動例、情報・施設との関わりについての活動例-	講義、グループトーク、発表	予習：シラバス、テキスト第 1 部 6・7 章を読んでおく。 復習：6・7 章の学習ポートフォリオに取り組む。	60
	6・7 章の学習ポートフォリオ			
第 6 回 ／	領域のあり方と環境を通して行う教育の意義-領域「環境」とは-	講義、グループトーク、発表	予習：シラバス、テキスト第 2 部 8 章を読んでおく。 復習：8 章の学習ポートフォリオに取り組む。	60
	8 章の学習ポートフォリオ			
第 7 回 ／	園内で行われる乳幼児の遊びや活動における環境-1 日の流れに即した環境構成とは-	講義、グループトーク、発表	予習：シラバス、テキスト第 2 部 9 章を読んでおく。 復習：9 章の学習ポートフォリオに取り組む。	60
	9 章の学習ポートフォリオ			
第 8 回 ／	園庭で行われる乳幼児の遊びや活動における環境-なぜ、感覚体験・原体験が大切なのか-	講義、グループトーク、発表	予習：シラバス、テキスト第 2 部 10 章を読んでおく。 復習：10 章の学習ポートフォリオに取り組む。	60
	10 章の学習ポートフォリオ			
第 9 回 ／	自然に親しみ、植物に触れる環境-なぜ、自然に親しむことが大切なのか-	講義、グループトーク、発表	予習：シラバス、テキスト第 2 部 11 章を読んでおく。 復習：11 章の学習ポートフォリオに取り組む。	60
	11 章の学習ポートフォリオ			
第 10 回 ／	動物・小動物に関わる環境-動物・小動物に関わる環境の活動例-	講義、グループトーク、発表	予習：シラバス、テキスト第 2 部 12 章を読んでおく。 復習：12 章の学習ポートフォリオに取り組む。	60
	12 章の学習ポートフォリオ			
第 11 回 ／	数量・図形、標識・文字に関わる保育の環境-数量・図形、標識・文字に関わる環境の活動例-	講義、グループトーク、発表	予習：シラバス、テキスト第 2 部 13・14 章を読んでおく。 復習：13・14 章の学習ポートフォリオに取り組む。	60
	13・14 章の学習ポートフォリオ			
第 12 回 ／	生活の関心の深い情報や施設に関わる環境-生活の関心の深い情報や施設に関わる環境の活動例-	講義、グループトーク、発表	予習：シラバス、テキスト第 2 部 15 章を読んでおく。 復習：15 章の学習ポートフォリオに取り組む。	60
	15 章の学習ポートフォリオ			
第 13 回 ／	生活の流れに応じた環境と指導案-部分指導案の立案-	講義、グループトーク、発表	予習：シラバス、テキスト第 1 部 1 章を読んでおく。 復習：16 章の学習ポートフォリオに取り組む。	60
	16 章の学習ポートフォリオ			
第 14 回 ／	幼稚園・保育所のクラス環境構成の作成-クラス環境構成の作り方-	講義、グループトーク、発表	予習：シラバス、テキスト第 1 部 1 章を読んでおく。 復習：17 章の学習ポートフォリオに取り組む。	60
	17 章の学習ポートフォリオ			
第 15 回 ／	海外の環境保育-レッジョ・エミリア幼児教育など-	講義、グループトーク、発表	予習：シラバス、テキスト第 1 部 1 章を読んでおく。 復習：18 章の学習ポートフォリオに取り組む。	60
	18 章の学習ポートフォリオ			

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
領域及び保育内容の指導法に関する科目 保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		保育内容（言葉）の理論と方法 Theory and Method to Contents of Nursing（Language）		2 単位	必 修	講 義	2 年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標								
学修教育目的								
	言葉を通じた表現の広がりや深まりを追究し、保育者と子ども相互間の「表現と理解」について再認識する。							
キーワード			学修教育目標					
	言葉 表現 言語発達			幼稚園教育、保育において「育みたい資質・能力」を理解し、言葉の獲得に関する領域「保育内容（言葉）」のねらい及び内容について、幼児の発達に即した、主体的・対話的な深い学びが実現する過程を踏まえながら、具体的指導場面を想定した保育内容を計画、実行できる。				
授業科目の概要及び学修上の助言								
乳幼児の言語発達状態を知り、絵本、素話、ストーリーテリング、紙芝居、エプロンシアターの特色を理解し、模擬保育をする。乳幼児期の非言語表現（ベビーサイン、ボディランゲージ）を学び、言語発達の状態を理解する。								
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能								
発達心理学、幼児心理学、精神衛生に関する科目が必要です。表現関係の技術が必要です。								
教 科 書				参考書・リザーブブック				
書 名：子どもの育ちと言葉 著者名：松川利広 出版社：学事情報出版				なし				
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）					
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。		乳幼児の言語発達状態を理解する。					○
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。		さまざまな言語伝達と表現方法ができる。					◎
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		話す速さや位置、伝えるためのポイントを理解する。					△
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		乳幼児の身近な言語表現技術を身につける。					○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		ひとり一人の乳幼児の差異を考える。					○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		乳幼児の保育財（こども文化）を反映する。					○
授業科目における社会人基礎力の育成目標								
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）		① 主体性	さまざまな伝達方法に積極的に取り組む。					○
		② 働きかけ力						
		③ 実行力	模擬保育でチャレンジしてみる。					△
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）		① 課題発見力	なにが原因で伝わりにくかったか考える。					○
		② 計画力	伝えるための構造化を理解する。					○
		③ 創造力	どこに手を加えればさらに面白くなるか工夫する。					○
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）		① 発信力	模擬保育の中で改善点を指摘しあう。					○
		② 傾聴力						
		③ 柔軟性						
		④ 状況把握力						
		⑤ 規律性						
		⑥ ストレスコントロール力						
4. 倫理観		① 倫理性						

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			50			50				100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		10			10				20
	技能に関する評価		10			10				20
	応用力に関する評価		10			10				20
	チームワーク力に関する評価		10			10				20
	関心・意欲に関する評価		10			10				20
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
乳幼児の突発的な反応にも臨機応変に対応できる。					柔軟にアレンジできる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	オリエンテーション　ー保育内容（言葉）とは 資料　「領域　言葉」	ボディランゲージと言語表現のトレーニングをする	伝えること・聞くことについて考える	20
	3 歳未満児の非言語表現と 3 歳以上児の言語表現の特色の理解			
第 2 回 ／	言葉の獲得に関する領域「保育内容（言葉）」の基本 資料　「保育教諭としての言葉」	活動の援助になる言葉がけのトレーニングをする	指導と援助について考える	20
	子どもの視点での命令・干渉・制限の意味の理解			
第 3 回 ／	言葉の獲得に関する領域「保育内容（言葉）」のねらい 資料　「こどもの育ちと言葉」	「ながら」活動のトレーニング	子どもの時間感覚のちがいについて考える	30
	教科と領域の違いの理解			
第 4 回 ／	言葉の獲得に関する領域「保育内容（言葉）」の内容 資料　「言葉における人的環境」	ベビーサインのトレーニング	ベビーサインのお国柄を考える	20
	喃語とベビーサインの理解			
第 5 回 ／	乳幼児のことば① ー乳幼児の発達とことば 資料　「絵本の選定」	絵本の読み語りのトレーニング	絵本について考える	10
	3 歳未満児に話すスピードと絵本の文字スペースの理解			
第 6 回 ／	乳幼児のことば② ー身体表現、コミュニケーション、人とのかかわり 資料　「乳幼児の非言語環境」	3 歳未満児との話し方のトレーニング	幼児語について考える	10
	文字のない絵本のサイズと使い方の理解			
第 7 回 ／	乳幼児のことば③ ー遊びとことば 資料　「幼児の話し言葉環境」	3 歳以上児の読み語りのトレーニング	昔話の伝承について考える	20
	ストーリー絵本の使い方の理解			
第 8 回 ／	言葉の獲得に関する領域「保育内容（言葉）」の保育方法① ー指導案の作成 資料　「ストーリーテリング」	ストーリーテリングのトレーニング	身振りや手振りについて考える	10
	素話の仕方の理解			
第 9 回 ／	言葉の獲得に関する領域「保育内容（言葉）」の保育方法② ー教材や情報機器の研究及び活用 資料　「オノマトピア」	紙芝居のトレーニング	言葉や動作の繰り返しについて考える	20
	擬音などのオノマトピアの理解			
第 10 回 ／	言葉の獲得に関する領域「保育内容（言葉）」の保育方法③ ー指導上の留意事項 資料　「エプロンシアター」	エプロンシアターのトレーニング	ナレーションとセリフの分担について考える	10
	役割分担の仕方の理解			
第 11 回 ／	言葉の獲得に関する領域「保育内容（言葉）」の保育方法④ ー評価と改善 資料　「ことば遊び」	創作テリングのトレーニング	セリフの方言特性について考える	20
	方言の理解			
第 12 回 ／	言葉の獲得に関する領域「保育内容（言葉）」の保育方法⑤ ー模擬保育実践事例を通しての理解ー 資料　「ことばが気になる子の理解」	時間を食べるトレーニング	バイオリズムについて考える	10
	「みんなちがってみんないい」の発想の理解			
第 13 回 ／	小学校の授業と保育の違い 資料　「唄い語り」	添い寝読みのトレーニング オンデマンド資料を使用した授業	トニックネックレフレックス姿勢について考える	10
	3 歳未満児に特有の方法の理解			
第 14 回 ／	これからの保育と身近な環境との関わりに関する領域 「保育内容(言葉)」の内容 資料　「絵本を読んでもらう」	子どもに読み聞かせてもらうトレーニング	既知の絵本表現をアレンジすることについて考える	10
	3 歳以上児に特有の方法の理解			
第 15 回 ／	子どもの話を聞き、子どもに語りかける 保育教諭が配慮する点を理解したかどうかチェックする	子どもと語り合うポイント 保育教諭が配慮する点を確認する	14 回の講義内容を見直す	10
	乳幼児との対話の要点の理解			

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学 び の 道 標 （ み ち し る べ ） （ 学 修 支 援 計 画 書 ）

授 業 科 目 区 分		授業科目名（下段:英名表記）		単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
領域及び保育内容の指導法に関する科目 保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		保育内容（表現）の理論と方法 Theory and Method to Contents of Nursing（Expression）		2単位	必 修	講 義	2年次	秋学期	
授業科目の学修教育目的・目標									
学修教育目的	領域「表現」のねらい及び内容、子供の表現の在り方や発達、特性について理解を深め、幼児教育に携わる京育者として必要な感性や創造性を豊かにする多様な表現あそびや環境構成などの専門的な知識・技能を実践的に学ぶ。								
	造形表現 乳児・幼児の表現活動 実践授業、対話型授業 アクティブラーニング プレゼンテーション 紙芝居	学修教育目標	領域「表現」のねらい及び内容を理解する。 子どもの表現のあり方や描画の発達について理解する。 実制作を行った後に指導に必要な事項を振り返り記述し、現場で役立つ経験を身に着け資料を作成する。 共通のテーマで協同制作に取り組み、表現活動の共有と相互評価を行い主体的な学びを行う。 伝える技術を習得し実践を行い、発表後の考察を行い課題を見つける。						
授業科目の概要及び学修上の助言									
個人制作、協同制作の発表と評価を行う。 個人で取り組む造形表現の実践制作とその振り返りは、成果を提出する。欠席した場合も課外時間に取り組み提出することが望ましい。									
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能									
保育内容(表現)の理論と方法									
教科書				参考書・リザーブドブック					
幼稚園教育要領/保育所保育指針/幼保連携型認定こども園教育・保育要領				感じることからはじまる子どもの造形表現-理論と実践事例から学び, 考えよう (教育情報出版)					
No.	学 科 教 育 目 標		学生が達成すべき行動目標（※1）						
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。		領域「表現」のねらい及び内容を理解し、制作とその振り返りを通じて専門的な知識を得る。						○
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。		制作と振り返りを通じて、必要な技能を身につけ現場で活用できるようになる。						○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		子どもの発達について学び、発達を意識した振り返りを行い知識の確認を行う。						○
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		子どもの発達について学び、発達を意識した制作を行い技能の習得と発達に合わせた関わりを意識する。						○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		子どもの教育・支援に関する工夫について学び、専門職として使命感、責任感、倫理観の伴う行動を意識する。						△
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		制作発表後に考察と振り返りを行い、課題解決のための取り組み手法の体験と、今後の活用を図る。						○
授業科目における社会人基礎力の育成目標									
分類(4つの力)		能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）						
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)		① 主体性	提案に対して自ら調査や想定を行い表現を行う。						◎
		② 働きかけ力	制作において発展的な提案を行う。						○
		③ 実行力	発展的な提案に対して実際に形として表す。						△
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)		① 課題発見力	意図を明確にして伝える内容を明らかにする。						○
		② 計画力	材料、時間、人員などの制約を守り、計画に基づき成果作品とその発表を完成させる。						○
		③ 創造力	ねらいを明確にして工夫を行い実行する。						○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)		① 発信力	伝える技術を習得し発表で生かす。						◎
		② 傾聴力	他者の意見を取り入れる 他者の作品や発表をしっかりと注意深く見聞きして評価する。						○
		③ 柔軟性	異なる意見や提案に対して、利点欠点を考察して建設的な対応を行い制作に生かす。						△
		④ 状況把握力	得意分野や立場の違いを伝え合い理解を図る。						△
		⑤ 規律性	提出日、発表時間を把握して守る。						○
		⑥ ストレスコントロール力	発表を行い意図した内容を伝える体験をする。						△
4. 倫理観		① 倫理性	教諭としての責任と自覚を持ち、子どもの発達特性を理解して相手の立場に立った行動を心がける。						○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達 成 度 評 価										
指標と評価割合		評 価 方 法	試 験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作 品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合 計
総 合 評 価 割 合			45		10	15	15	15		100
評 価 の 指 標	知識に関する評価		30							30
	技能に関する評価						15	15		30
	応用力に関する評価									
	チームワーク力に関する評価					15				15
	関心・意欲に関する評価		15		10					25
具 体 的 な 達 成 の 目 安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
領域「表現」のねらい及び内容と子どもの発達について理解し自ら調査模索を進め、造形表現実践とその振り返りににおいて必要な知識と技術の習得に加えて発展的な提案を行い現場を想定し実行に移す。 協同制作に積極的に取り組みグループの状況を把握し意見の折衝を行い、表現活動の共有と相互評価を体験し主体的な学びを今後の課題解決に繋げる。					領域「表現」のねらい及び内容と子どもの発達について理解し、造形表現実践とその振り返りを行い必要な知識と技術を身につける。 協同制作に取り組み、表現活動の共有と相互評価を体験し主体的な学びを行う。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 1 回 ／	授業概要の説明 持ち物と授業形態、課題について 描画造形表現実践 あわせ絵、手足指絵	資料と教科書を使用した講義形式 制作時個別対応	実践のまとめと振り返りを記述する	30
	領域「表現」への理解、実践のまとめと振り返り			
第 2 回 ／	描画造形表現実践 たらし絵・吹き流し 海外の幼児教育	資料を使用した講義形式 制作時個別対応	実践のまとめと振り返りを記述する	30
	実践のまとめと振り返り			
第 3 回 ／	描画造形表現実践 シャボン玉絵 色の基礎知識	資料を使用した講義形式 制作時個別対応	実践のまとめと振り返りを記述する	30
	実践のまとめと振り返り			
第 4 回 ／	描画造形表現実践 紙染め	資料を使用した講義形式 制作時個別対応	実践のまとめと振り返りを記述する	30
	実践のまとめと振り返り			
第 5 回 ／	工作造形表現実践 じぐざぐ折	資料を使用した講義形式 制作時個別対応	実践のまとめと振り返りを記述する	30
	実践のまとめと振り返り			
第 6 回 ／	工作造形表現実践 立体-円柱、角柱	資料を使用した講義形式 制作時個別対応	実践のまとめと振り返りを記述する	30
	実践のまとめと振り返り			
第 7 回 ／	工作造形表現実践 端材を使った立体-くるくるカール	資料を使用した講義形式 制作時個別対応	実践のまとめと振り返りを記述する	30
	実践のまとめと振り返り			
第 8 回 ／	工作造形表現実践 おもちゃづくり	資料を使用した講義形式 制作時個別対応	実践のまとめと振り返りを記述する	30
	実践のまとめと振り返り			
第 9 回 ／	領域「表現」の意義と子どもの発達について	資料を使用した講義形式	参考資料を用いて復習を行う	30
	領域を意識した学び			
第 10 回 ／	伝える技術 2_資料提示方法	資料を使用した講義形式	参考資料を用いて体験の振り返りを行う	30
	ICT の活用と関わり			
第 11 回 ／	グループワーク導入と概説 紙芝居のついて	資料を使用した面接授業と協同制作	取り組みのテーマを明らかにする	30
	テーマ設定への取り組みと意欲			
第 12 回 ／	アクティブ・ラーニング、グループワーク 紙芝居 グループ制作 1	個別対応面接授業と協同制作	協同制作に関する調査と作業進行	30
	協同制作への取り組みと意欲			
第 13 回 ／	アクティブ・ラーニング、グループワーク 紙芝居 グループ制作 2	個別対応面接授業と協同制作	協同制作に関する調査と作業進行	30
	協同制作への取り組みと意欲			
第 14 回 ／	制作発表と講評	発表への講評と資料を使用した講義形式	他者からの評価をふまえて表現や意図を考察する	30
	協同で表現活動を行い、意図を伝える 他者の評価を行う			
第 15 回 ／	自己点検振り返り、学期末試験内容告知	資料を使用した講義形式	発表後の考察を行い課題を見つける 学期末試験内容に備える	30
	自己課題、他者からの評価をふまえて活動を振り返り次回へ活かす			

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。